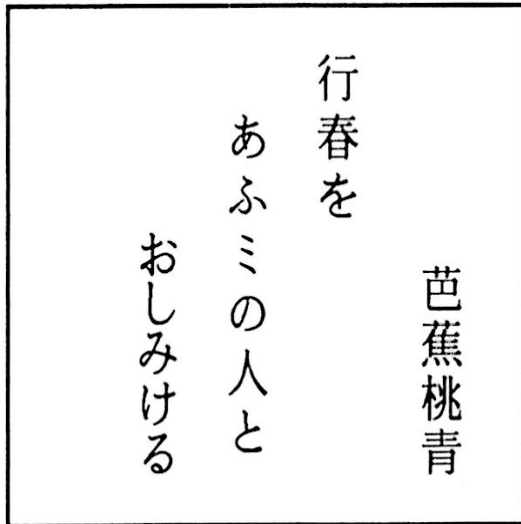


廿日市市の文芸碑拓本

芭蕉句碑

(山田邸)



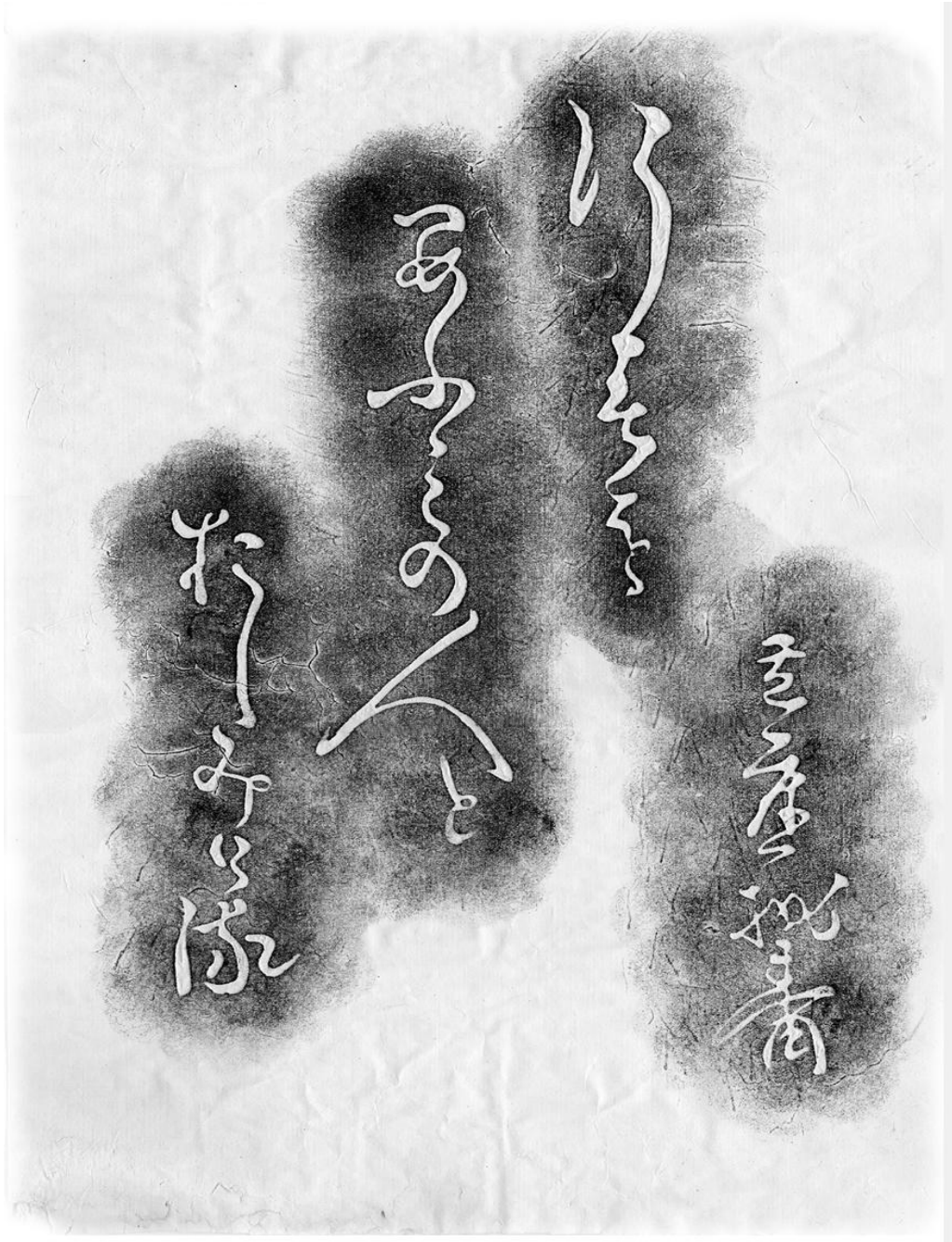
平成元年活動センター前に山田医師が平定式茶庭に芭蕉碑を建立され、現在は御自宅に移築されている。

大津市義仲寺の句碑の拓本を嵯峨野の落柿舎(らくししゃ)でもとめ、湯来産の水成岩に大竹の石材店が彫刻したものである。

落柿舎は芭蕉の弟子向井去来の別荘で、現在の庵は俳人井上重厚による再建である。場所も建物も芭蕉の時代のそれとは異なっている。

俳号は初め実名宗房を、次いで桃青、芭蕉(はせを)と改めた。この句は元禄三年三月、芭蕉が琵琶湖に風流の友と遊んだ時の作で、芭蕉の弟子向井去来が行秋や丹後ではその趣が異なると述べたと聞き、芭蕉は「共に風雅を語るべき者也」と悦んだという。





三原 宗重

三原 宗重

三原 宗重

三原 宗重